



○正直親切

東京のJR山手線の駅の一つに日暮里駅があります。童謡詩人の中村雨紅が、第三日暮里小学校に勤務していた時に作詞したのが「夕焼け小焼け」で、そのことにちなんだ「夕焼けだんだん」という階段が、駅の西口を出てしばらく歩くとあります。階段を降りるとそこには東京下町レトロとして観光客にも人気の谷中銀座商店街があります。近くには、東京都内において「歩行者が坂の上に立って富士山が望める」最後の富士見坂として知られていた場所もあります。そのすぐそばに第一日暮里小学校のさくら門があり、その前には創立百周年の際に造られた記念碑とフクロウの石像(写真)があります。昔から「学問の神様」「知恵の象徴」とされ、「不苦勞」「福老」とも表せるということで、縁起物ともされているのがフクロウです。



記念碑銘の「正直親切」は、彫刻作品「手」で有名な彫刻家で、同時に『道程』『智恵子抄』といった詩集を残した詩人としても有名な高村光太郎の言葉です。彼が第一日暮里小学校の卒業生だったのが碑銘選定の理由とのことです。

もともと「正直親切」の文字は、高村光太郎が戦争を支持する詩を多く発表したことへの自戒から戦後独居生活をしていた山口村にあった小学校の児童へ、未来への思いを込めて贈った言葉です。統合されて岩手県花巻市立太田小学校となっていますが、校是にもなっている言葉です。校是とは、その学校の教育上の根本精神のことで、校訓を定めていない松江東高校では、創立以来の「師弟同行」、校歌の「いざや 磨かん ともがらよ (切磋琢磨)」、そしてグランドデザインの「自立への道程」がそれだと考えています。

「正直親切」とは、「自分に正直であれ、人に親切であれ」という意味です。太田小学校のHPでは「正直親切は、あたりまえのことだが大切なこと。正直でないと信用されない。親切は、いつでもどこでも大切なこと。」と説明されています。

フクロウ石像の土台には、「君たちに」と題したメッセージ版があります。「君たちに手渡す100年 君たちが築く未来 一緒に此处で語り合おう あしたの世界を…限りのない流れのなかで 百年はまたたく間だが ここで無限の夢をはぐくむ 万余の仲間たちがいる…その仲間の思いをここで いま二十一世紀を歩む 君たちに願う…自分に正直であれ 人には親切であれと」

「僕の前に道はない、僕の後ろに道は出来る」とは、高村光太郎の詩集『道程』の言葉です。「人生に開拓された道はない、進んできた後には自ら切り拓いた道が出来ている」という意味ですが、「自立への道程」にも同じ意味合いが込められていると思っています。

第一日暮里小学校は、「一日小」とも言うようです。「心はいつでもあたらしく 毎日何かしらを発見する」とは、高村光太郎が山口小学校に校訓として贈った言葉です。

一日一日を大切に、自己の未来を切り拓いて進んで行けば、毎日何かしらの発見や感動、成長がある。そのためにも正直親切に心がけ、心をいつでも新しくしていきましょう。